

自己紹介中①

『自己紹介をして下さい。』と、飲み会の途中で全員が自己紹介を始めるような場面が時々あるのだが、こういう時に、多くの人は、「○○と申します。どこどこで、なになにをしています。」などと自己紹介をする。また、自分の直前の人の自己紹介の形式に習って、同じ形で自己紹介を続けることも多々ある。私の場合、自分の番が回ってくる間に、緊張の面持ちで、先の例とは違う形の、気の効いた何かを言えないかと、脳内をフル回転させて順番を待つのだが、結局、「おにぎり大好き寺江圭一朗です！」などと、つまらないことを言い失敗に終わる。自己紹介は難しい。

7月の美術教室開講日のお知らせ

教室	7/11(土)	10:00 ~ 11:30
教室	7/18(土)	10:00 ~ 11:30
教室	7/25(土)	10:00 ~ 11:30

1時間半 1750円から
(問い合わせ 090-1330-1272 テラエ)



【随筆】文字が多い。知り合いに、この掲示板のこと
を言ったら、見せてくれという

ことになり、写真を見せたのだが、その感想を聞くと、「文字ばかりじゃないか。」と言う。私もそのことには気がついていて、どうにかしようと考えていたのだが、良い案が浮かばず毎回断念していた。新聞と云えば、四コマ漫画が毎日掲載されている。私は、まともに読んだことがなかったが、あの四コマ漫画は、新聞紙面のデザインにとって、実はかなり効果的なものかもしれないと思った。もし、四コマ漫画がなくても、紙面の内容は変わらないだろうが、知人の指摘と同じように、「文字ばかりじゃないか。」と思われたら、購読を打ち切りにする人もいるかもしれないから大きな違いだろう。デザインには、物の構造を上手に捉え直すという意味がある。例えば、一枚の紙面に、どのように四コマ漫画を配置し美しく見せるか、あるいは読みやすく見せるかということ、**造形的なデザイン**なのだが、新聞の購読者数を増やすために、新聞に四コマ漫画をもっと取り入れようなどということになる、これは**構造的なデザイン**となる。この2種類のデザインによって、私達の身の回りの物やルールなど、人間が創ってきたもののかたまりを語るることができるのではないか。あなたの目に映る、なんでもない物事も、実はデザインされていて、よく見たり考えたりしてみると、違って見えてくるかもしれない。

(文・美術作家 寺江圭一朗)